

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 2月 28日

事業所名 放課後等デイサービスゆいまーる

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を 踏まえた改善内容又は 改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	9	2		・①児童が成長したので せまく感じる。(意見) ・1Fと2Fに余裕を持ってス ペースを分けている。	①運動教室など身体を 動かすときは外で遊ぶ ようにする
	②	職員の配置数は適切である	7	4		・①利用人数に対してス タッフが少なく大変な時が ある。(意見)	・①子供たちの色々な タイプそれぞれに適正な 配置ができるスタッフ数 ではある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	5	5	1	・誰もが過ごしやすい設備 だと思う。	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り)に、広く職員が参画 している	5	6		・子供たちが来る前、毎日 ミーティングの機会があっ たり、まず職員自ら「あの 日どうだったか?」「何か あったか?」等、皆が率先 して情報を振り返ってい る。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	3	8		・アンケート調査、意向等 の把握はしているがそれ を業務改善につなげている かは分からない。参考 にはしている。	・様々な意見を会議等 で話し合い、より良い支 援ができるよう今後も継 続していく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	8	3			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		9	2		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	9	1	1	・怪我等とトラブル対応の 研修は確保しているが、 基本的な業務はやりなが ら覚える形。	
適切な 支援の提	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	8	2	1	・課題等をまとめ紙にプリ ントし、児童一人一人半年 に一回、その課題を改善・ 達成しているか会議し、そ の後の計画を柔軟に立案 。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	3	8		・PCで情報データをまとめ ている。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	4	3	・マンネリ化しないようス タッフそれぞれの意見も 取り入れ立案している。子 供たちの意見も聞く。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	6	5		・担当を変えたり、プログ ラムの種類は同じものの 毎回別の内容を行い多様 な経験を促す。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	3	7	1	・平日と休日で1日の流れ は全く変わってくるので、 それぞれ作戦を練って1日 の流れを決めている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を 踏まえた改善内容又は 改善目標
供	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	3	1	・主にプログラムが個別・集団でそれぞれ取り組ませる場面があり、どうしても難しい理由がある際は、スタッフがその場でやり方を柔軟に対応する事がある。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	9	2		・前日のうちに既に役割担当が決まっており、毎度子供たちが来る前にスタッフ同士で確認合っている。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	5	3	・⑭と同様、率先して振り返っている。(次に繋げる)	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	6		・日常風景、食べたもの、プログラムの取り組み等、それぞれ毎日紙に記録している。	
関係機関や保護者との連携	⑩	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	7		・毎日スタッフ同士で何があったか、それに対してどうすればよかったか等、振り返り、見直している。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6	4	1		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	4			
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9	2		・情報に関しては、事前にリストや連絡帳、計画書等でお互い確認合っている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	6	3		
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		6	5		
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		8	3	・まだその状況になっただけで、わからない。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	9			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	3	6	・コロナのため、できていない。	
㉗	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	2	9				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を 踏まえた改善内容又は 改善目標
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	9	2		・毎日の連絡帳はもちろん、送迎時に状況を伝えたりしている。(課題等は面談で)	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	2	8	1	・㉘の延長線で、一緒に対応力を高め合う。	
保護者への 説明責任等	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	6	5		・資料を用いて説明している。	
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	2		・電話はもちろん、保護者様から直接、連絡帳など様々なシーンで相談に応えている。	
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	3	6	2	・毎年行っていたが、コロナのため難しくなっている。	
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の 体制を整備するとともに、子どもや保護者に 周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に 対応している	10	1		・すぐに対応している。(スタッフへの周知も迅速に行っている)	
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	11			・通信として発行している。連絡体制も整っている。	
	㉟	個人情報に十分注意している	7	4		・写真等を掲載する場合はモザイク処理をしている。情報資料等は事務所にて厳重に保管している。	
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	9	2		・絵で説明したり、事務的な報告が苦手な保護者様には口頭で話に行くなど配慮している。	
	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域 に開かれた事業運営を図っている	2	5	4	・自分から伺う、参加することはあるが、図っていないかと言われたらそうではない。	
非常時 等の 対応	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に 周知している	3	8		・マニュアルは一部はあるが未完成。周知はできていない。	
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出その他必要な訓練を行っている	10		1	・半年に一回、行っている。	
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確 保する等、適切な対応をしている	8	3		・必ず行っている。	
	㊶	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、放課 後等デイサービス計画に記載している	3	8		・スタッフや保護者様等の大人はもちろん、子供たちとも「この場合はやむを得ない」などと話し合い決められている。主に暴力やいじめ。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を 踏まえた改善内容又は 改善目標
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	6			
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	1			

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。